風水害対策　安全に避難するためには

風水害の前兆があったら

- 避難指示が出たときに、すぐに動けるように準備する。
- 非常持出品を点検・確保する。
- 家電・畳など水にぬらしたくないものを上階へ移動しておく。
- 地下室などがあれば、出入り口に止水板や土のうを置いて、浸水を防ぐ。

水　害

- 水深50cmを上回る（ひざ上までの水）場所での避難は危険。

- 水の流れが速い場所は20cm程度でも歩行できないことがある。
- 用水路などへの転落の可能性がある場所では10cm程度でも危険。
- 堤防のない河川で水があふれると、次第に浸水域、浸水深が増加する。
- 堤防が壊れると、水は一気に押し寄せる。
- 水が押し寄せて歩くのが危険になった場合は、自宅や隣接建物の2階などへ緊急避難する。

- 市街地の小河川や下水道の氾濫は浅い傾向にあるが、地下施設などでは生命に関わる。

インターネットによる情報収集

台風や大雨など気象情報『気象庁』	東京都の降雨情報『東京都下水道局』	東京都水防災総合情報システム『東京都建設局』

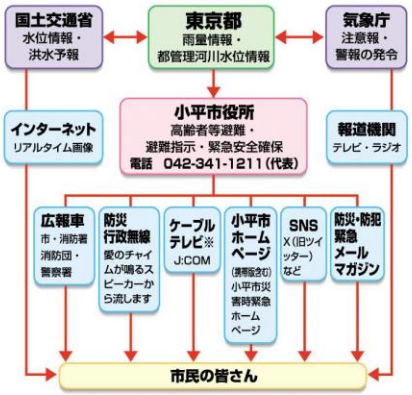
都市型水害

集中豪雨などで道路や宅地に降った雨が、一時的に流れ込み、処理能力を超えて浸水被害が発生するという「都市型水害」が増えている。

- マンホールの異常を発見したら！
  大雨によりマンホールのふたが外れることがある。危険なので近寄らない。
  また、発見した時は市役所へ連絡をする。

- マンホールを開けないで！
  道路に溜まった雨水を流すために、みなさんがマンホールや汚水ますのふたを開けることは、非常に危険。
- 豪雨時の地下室利用は危険！
  地下室では外の様子がわからない。洪水により一気に水が流れ込んだり水圧でドアが開かなくなるなど危険。

風水害対策　小平市情報の伝達経路



※コミュニティチャンネルにおいて災害情報を緊急文字情報（文字放送）として配信します。

風水害対策　土砂から身を守るために

前兆現象に注意

土砂災害は、雨が多く降る梅雨期や台風時期、また地震が起きた時などに発生しやすくなります。

下記のような現象を見たり聞いたりした場合には、避難行動をとりましょう。

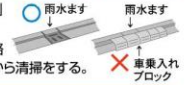
- 地面にひび割れができる。
- 家や擁壁に亀裂が入る・広がる。
- 家や擁壁、樹木や電柱が傾く。

前兆現象に気を配り、危険を感じたら安全な場所に避難しましょう。がけ崩れの危険がある地域の人は、がけに面した部屋から離れ、安全な隣室への移動や、垂直避難をするようにしましょう。

風水害対策　家の内外の備え

側溝や雨水ますの清掃を

- 道路沿いの「側溝」や「雨水ます」の上に物を置かない。
- 側溝や雨水ますが詰まると、道路冠水や浸水の原因になる。日頃から清掃をする。



浸水への事前対策を

- 地下施設など浸水の危険がある場所には、日頃から浸水防止の準備をする。
- 土のう、止水板、排水設備（ポンプ）の整備・点検などを日頃から心がける。

家庭にあるものを利用して浸水防止

- 簡易水のうを利用して
  - ごみ袋を2重にして中に半分程度水を入れ、袋の口をしばると簡易水のうが出来る。
  - ダンボール等に入れると持ち運びに便利で、設置も簡単。

- 止水板を活用して
  - 水のうやポリタンクを、長めの板等と組み合わせ利用して浸水を防ぐ。
- プランターやポリタンクを活用
  - プランターやポリタンクを並べてレジャーシートで包み、浸水を防ぐ。

排水口からの浸水防止

- 水のうを利用して排水口からの浸水を防止する方法
  - 風呂場の排水口からの逆流防止　・トイレの排水口からの逆流防止
  - 洗濯機の排水口からの逆流防止

備えておくべきこと

台風や集中豪雨はある程度予測できる災害。情報を入手し、しっかりした準備をしておく。※市内の浸水予想区域の状況については、浸水予想区域図をご確認ください。

雨どい
- 雨どいの掃除をする。
- 繋ぎ目のはずれや塗料のはがれなどを点検・補修する。

屋根
- 屋根瓦・スレートのひび割れやずれなどを点検・補修して飛ばされないようにする。
- アンテナや煙突などの補強をする。
- 可能であれば、屋根へ避難できるよう、開閉式の天窓を設置する。

窓ガラス
- 雨戸のないガラス窓は飛来物の破損から守る工夫をする。
- ひび割れ、ゆるみ、がたつきなどを点検・補修する。

ベランダ
- 竿を取り込み、ベランダなどの小物を全て取り込む。

外壁・塀
- ひび割れ、破損、ぐらつきなどを点検・補修する。

家の周囲
- プロパンガスボンベやエアコンの室外機をしっかり固定する。
- 建物の周囲にある箱などを片付ける。
- 建物の周囲にある看板・自転車・植木など風に飛ばされそうな物は取り込むか倒れないようにしておく。

雨戸
- 古い雨戸は、飛ばされないように筋交いをつけたり、つっかい棒をあてがったりして、応急の補修をする。

家の中
- 浸水の危険がある場合には、大切な家財道具は二階や高い安全な場所に移動する。

風水害対策　気象情報の種類と特徴

集中豪雨

狭い地域に短時間で突発的に降る雨。予想が難しく、河川の氾濫や土砂災害など、大きな被害をもたらす。

■ 雨の強さと被害

1時間雨量（mm）	予報用語	想定される被害
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る。雨の音で話し声がよく聞き取れない。
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り。下水や小川があふれ、小さながけ崩れが発生。
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したような雨。がけ崩れが起こりやすい。
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降り、地下に水が流れ込む。土石流が起こりやすい。
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。大規模な災害が発生する恐れが強い。厳重な警戒が必要。

■ 気象情報の発表基準（気象庁）

大雨	普段から… 大雨になるおそれ 雨が降り出す		気象情報・空の変化に注意 ・周りより低い場所など、危険箇所を把握 ・避難場所や避難ルートを確かめておく
大雨	雨が強くなると… 大雨注意報	発表基準	最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を 雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動！ ・気象情報や外の様子に注意 ・非常用品や避難場所、避難ルートを確認 ・災害に備えて、家の外の備えを点検 表面雨量指数基準 11　土壌雨量指数基準 134
大雨	大雨が降り続くと… 大雨警報	発表基準	自治体が発表する避難に関する情報に注意し、必要に応じ速やかに避難 ［浸水害］表面雨量指数基準 15 ［土砂災害］土壌雨量指数基準 151
大雨	今から激しい大雨が続くと… 大雨特別警報	発表基準	**非常事態　ただちに命を守る行動をとる** 市町村からの避難指示に従い直ちに避難先に避難！ 外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動 「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。 数十年に一度の規模
大雨	記録的短時間大雨情報		発表基準　1時間雨量 100mm
洪水	洪水注意報	発表基準	洪水によって災害が起こるおそれがあると予想されるとき。 流域雨量指数基準 石神井川流域＝4.9 複合基準 石神井川流域＝（9,4.2）
洪水	洪水警報		洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想されるとき。 ※石神井川に「氾濫危険情報」が発表された場合に洪水警報も発表されます。

台　風

台風は、強風や大雨で大きな被害をもたらす。その大きさは「風速15m/秒以上の半径」、強さは「最大風速」で表す。

■ 風の強さと被害

平均風速（m/秒）	予報用語	想定される被害
10以上～15未満	やや強い風	風に向かって歩きにくい。取り付け不完全な看板やトタン板が飛ぶ。
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩けない。高速道路で通常速度での運転が困難。
20以上～25未満	非常に強い風	物につかまってしっかり立たないと転倒する。飛来物でガラスが割れる。
25以上～30未満		立っていられない。車の運転は危険。ブロック塀が壊れる。
30以上～	猛烈な風	屋根が飛ばされる。屋外での行動は極めて危険。木造住宅の全壊が始まる。